

事務事業 No./名称	■サービス部門 健福-41 がん検診事業			タイムスコード及び個別事業名				
	□支援部門			110	がん検診事業			
主管課	市民健康課	関連課	保険年金課、高齢者いきいき課					
分野名	健康福祉							
目標 (目標値)	市民のがん検診の受診率を向上させ、がんの早期発見、治療を図る。							
人口等の データ	データ区分	21年度	20年度	備考				
	人口	176,669人	176,484人	・各年4月1日 (住民基本台帳)				
	世帯数	78,131世帯	77,430世帯					
運営資源 状況	決算値	349,037千円	431,730千円					
	(国・県)	0千円	0千円	指標と評価				
	(負担金等)	0千円	0千円	指標	がん検診の受診率向上			
	(一般財源)	349,037千円	431,730千円	評価	△			
	人員配置数	4.0人	4.0人	◎目標を達成 ○目標に向かって前進 △横ばい ×後退				
	人件費	37,102千円	37,462千円	目標値	実績値			
	協働の パートナー	鎌倉市医師会 検診機関	鎌倉市医師会 検診機関	20年度	50%	32.60%		
事務事業 運営経費	総事業費	386,139千円	469,192千円	21年度	50%	28.60%		
	市民1人当 りの経費	2,186円	2,659円	22年度	50%			
	対象者1人 当りの経費	—	—	23年度	50%			
ベンチマー ク(県内外自 治体や民間 団体との比 較値)	団体名					最終年度 (年度)	50%	
創意・工夫・課題等 改善状況	課題・問題 点	(21年度事務事業を実施するうえでの課題・問題点は、どのようなことでしたか) ・マンモ併用検診の受診者が増加し、検診機関で予約が取れなくなる状況があった。 ・子宮頸がんの若年層の罹患が増加しているにもかかわらず、受診率が上がらない。 ・要精密検査となりながら、精密検査を受けていないものに対して、受診勧奨ができるよう体制作りを進めたが、対象者数が相当数いることから、思うような受診勧奨ができなかった。 ・本来検診の対象者でない者(既往歴があったり、経過観察中の者)が検診を受診し、精密検査を受けないという状況が多く見られた。						
	創意・工夫・課題等 の改善点 21年度の 成果	(課題・問題点についてどのような創意工夫、改善をしましたか。また、どのような成果がありましたか) ・マンモ併用検診の予約については、医師会と検討を行った。 ・女性特有のがん検診(子宮・乳)について、講座やイベントでチラシを配付して、検診の受診勧奨を行った。 ・受診券シール発送時の同封物や鎌倉衛生時報など、できるだけ多くの場面で「既往歴があったり、経過観察中の者」が検診対象でないことを周知した。 ・医療機関において、検診時に精密検査の必要性の説明を徹底した。 ・受診券シールに前年度精密検査対象者だとわかるよう、◆マークを付け、検診実施前に医師が説明できるようにした。						
	未解決の 課題・問題 点	(21年度事務事業の取組において対応(解決)できなかったものはどのようなことですか) ・若年層の検診受診率がなかなか向上しない。 ・10~12月の受診者が集中する時期に、マンモ併用検診の予約が取りにくくなる状況があった。						
	今後の方 針(対応・ 改善)	(上記対応できなかった課題・問題点について今後どのように対応(改善)していきますか) ・受診券シール発送時の同封物にがんが身近な病気であることや、検診の重要性を掲載することで啓発を図る。 ・若年層の集まるイベント会場などでの事業実施を計画する。 ・マンモ併用検診に検診車での集団検診を導入する(医療機関のやっていない日曜日に実施)。						
一次評価(課長評価)			二次評価(部長評価)					
A:充実又は拡大 B:現状のまま継続 C:統合又は縮小 D:廃止又は休止 E:事業完了								
評価結果	改善の必要性	特に若年層を中心に、受診率向上を図る必要がある。また、要精密検査受診割合を高めるため、引き続き周知、啓発を図る。		評価結果	改善の必要性	検診受診率と精密検査受診率の向上を図る。		
A	有			A	有			
課長名	市民健康課長 相川 誉夫			部名・部長名	健康福祉部長 石井 和子			